日曜 AM 9:00～9:30（フジテレビ系列）放送

第113話

「鬼太郎対三匹の刺客！」

フジテレビ
制作　読売広告社
東映

役職	氏名
企画	原田冬彦（フジテレビ） 木村京太郎（読売広告社）
プロデューサー	蛭田成一
製作担当	岡田将介
原作	水木しげる （コミックボンボン テレビマガジン たのしい幼稚園 おともだち）連載 （講談社）
シリーズディレクター	西尾大介
脚本	矢島大輔
演出	細田守
音楽	和田薫
キャラクターデザイン	荒木伸吾
総作画監督	姫野美智
美術デザイン	浦田又治

役職	氏名
作画監督	
美術	
原画	
仕上	
撮影	
編集	片桐公一
録音	今関種吉
音響効果	今野康之
選曲	西川耕祐
記録	
製作進行	坂本憲生知
演出助手	

【オープニング】

ゲゲゲの鬼太郎

作詞／水木しげる
作曲／いずみたく
唄・編曲／憂歌団
（wea japan）

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
朝(あさ)は寝床(ねどこ)で　グーグーグー
たのしいな　たのしいな
おばけにゃ　学校(がっこう)もしけんも
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌(うた)おう　ゲゲゲのゲー

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
昼(ひる)はのんびり　お散歩(さんぽ)だ
たのしいな　たのしいな
おばけにゃ　会社(かいしゃ)も仕事(しごと)も
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌(うた)おう　ゲゲゲのゲー

ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
夜(よる)は墓場(はかば)で　運動会(うんどうかい)
たのしいな　たのしいな
おばけは　死(し)なない　病気(びょうき)も
なんにもない
ゲッゲッ　ゲゲゲのゲー
みんなで歌(うた)おう　ゲゲゲのゲー

【エンディング】

イヤンなっちゃう節

作詞／森　雪之丞
作曲／岡本　朗
編曲／憂歌団 with HAKABA'S
唄／憂歌団
(wea japan)

★ イヤンなっちゃうオバケ　丑三つ時も
街はネオンが　まぶしくて
不良ぶってもアタシ　恥ずかしかり屋
顔が見えると　おどかせない

遊園地で　バイトする
妖怪に　愛をちょうだい
カネがなきゃ　夢もない
この街に　暮らすオバケもつらい

ビックラこいた！　墓場の横に
カラオケボックス　建っちゃった
ビックラこいた！　騒がしすぎて
オバケにゃホント　住みにくい時代さ

★★ イヤンなっちゃうオバケ　人間達が
機械みたいに　歩いてる
困っちゃったよアタシ　憂鬱な顔の
人はやっぱり　おどかせない

空は青く　水清く
妖怪は　怖くなくちゃ
昔から　続いてる
この星の　バランスが崩れちゃう

ビックラこいた！　コギャルの群が
アタシをけとばし　行っちゃった
ビックラこいた！　この世の中は
オバケにだって　怖いモノばかりさ

ビックラこいた！　鎮守の森が
雨に打たれたら　死んじゃった
ビックラこいた！　この世の中は
オバケにだって　怖いモノばかりさ

登場キャラクター

役名	摘要	声の出演者
鬼太郎		松岡洋子
目玉の親父		田の中勇
砂かけ婆		山本圭子
子泣き爺		塩屋浩三
猫娘		西村ちなみ
○		
ねずみ男		千葉繁
○		
五徳猫		
如意自在		
山爺		

○

ぬらりひょん

朱の盆

○

1

廃村・ぬらりひょんの隠れ家

ぬらりひょん、日記帳を開いて……。

ぬらり「くそう……鬼太郎め……」

日記は連敗の記録。ぬらりひょんの陰謀・悪魔ブエルとやかんづる・オベベ沼の妖怪・大蛇神ヤマタノオロチなどとある。

ぬらり「連戦連敗だわ……」

朱の盆、後ろからぬーっとのぞき込む。

朱の盆「ぬらりひょんさまぁ、鬼太郎に負けるのがすんごく好きなんですね」

ぬらり「なんだと！　朱の盆……、だったら、お前が退治して見ろ」

朱の盆「私が?!　ハハハ！　無理に決まってます。ぬらりひょんさまもご存じでしょ」

ぬらり「ああ、よく知っておるわ。おおそうだ、助っ人でも連れてこい。それくらいはできるだろう」

朱の盆「私が？　助っ人を？　連れて？」

ぬらり「そうだ、早く行け！」

あわてて、朱の盆飛び出ていく。

ぬらり「最初からなぜこの手段を考えなかったんだろう。フフフ、鬼太郎め……」

2	3
サブタイトル【三匹の刺客】	廃村から通じる道

トボトボ歩くねずみ男。

ねずみ男「腹へったぁ……。どっか、ちょっとぐらい金持ってぼけーっとしていて、すぐ騙せる奴いねえかな……」

と、向こうから朱の盆。トボトボ。財布を手に、ボケーッと歩いてくる。

ねずみ男「ラッキー！」

朱の盆「この金で助っ人を雇ってこいって。そんな事言っても、誰も知り合いなんかいないよ」

ねずみ男、朱の盆の後ろから、

ねずみ男「しゅーのちゃん！」

朱の盆「うわあああああああ！」

ねずみ男「おいおい、俺だよ。俺」

4

川の土手

カップ麺をすするねずみ男と朱の盆。

ねずみ男「わりいなあ、こんなにご馳走になっちゃって。しかしよう、ぬらりひょんもひでえヤツだよな。おめえら二人が日本中の妖怪から信用されていないって知っていてそんなこと言うんだもんな」

朱の盆「そうなんだ。助っ人なんて……、妖怪界に顔が広いわけでもないのに……。」

ねずみ男「広かねえけど、充分でかいよな。おめえの顔は」

朱の盆「……」

ねずみ男「どうしちゃったんだよ……。おーしわかった、何も言うな……朱の盆。このねずみ男様が一肌脱ごうじゃないか！」

朱の盆「でも、ねずみ男は鬼太郎の友達じゃ……？」

ねずみ男「何を言っている朱の盆。正義とは、その時々によって変わるものよ。目の前に困った妖怪がいれば、力を貸すのが、これ正義というものよ。なあ、朱の盆！」

朱の盆感激して泣きながら、

朱の盆「ねずみ男……。でも、鬼太郎より強い妖怪なんで……」
ねずみ男「まかせろ、まあ、あてがないでもない……」
朱の盆「本当⁉」
ねずみ男「……でもよ、ちょっ……と金がいるんだよな。でへへ」

5 道

ブラブラ歩くねずみ男と朱の盆。
ねずみ男（M）「助っ人ねえ……。鬼太郎より強い奴なんかいるわけねえし、……仮にいても高い事言うだろうし、かといって、ひょうすえや小豆とぎじゃ……──イメージ・ひょうすえ、小豆とぎ、いねえかな……。見た目だけで強そうな奴。そんでもってすぐ騙される奴……」
朱の盆「何考えているねずみ男」
ねずみ男「おお、強くて頼りになる妖怪よ」

6 廃工場

そこに通じる道に、ねずみ男と朱の盆。
朱の盆「本当にこんな所にいるのか？　強い妖怪が」
ねずみ男「ああ、強いヤツほど何気ない所に棲んでいるものよ」
朱の盆「何気ないと言うよりも、情けないところにみえるけど」
ねずみ男、ひょいと尻はしょりして、
ねずみ男「朱の盆。お前はここで待っていてくれ。俺がちょっくら行ってくる」
朱の盆「私もいく」
ねずみ男「いやいや、先生は気むずかしくて、知らないヤツが突然行ったら、いきなり食われちまうぜ。それでも良いのかい？」
朱の盆「あわわわわわ、待っています」

7

五徳猫の家

扉が開いて、
ねずみ男「ちわっ、ごめんよ……」
闇に、目が光る。
五徳猫（声）「誰だ……」

恐ろしげな声が響く。
ねずみ男「あたしでござんすよ」
五徳猫「その声は、ねずみ男⁉　……何の用だ」
ねずみ男「ちょいとあたしの話を聞いてくれれば、腹一杯飯を食えるんですがね」
五徳猫「なんだと！　……そんな良い話があるのか。何でもするぞ」
出てきたのは、ヘロヘロのやせ猫。
○テロップ【五徳猫】
五徳猫「腹へったぁ、ここんとこ、ろくに食べておらんのだ」
ばったり倒れる。
ねずみ男「ここまで酷いとは、……まあ良いか」

8　河原

朱の盆。向かい合い、ねずみ男と五徳猫。
ねずみ男「五徳猫先生は、猫妖怪の中で最強の妖力をお持ちだ。ただちょっと断食の修行が長かったもんでな」
五徳猫の背中に板が張り付けてある。

ねずみが支え案山子のように立っている。

朱の盆「すごいすごい！　断食の修行なんて私絶対まねできないもん」

ねずみ男（M）「ほんと、おめでたい奴だねどう見たって、食い詰めてボロボロになった野良猫じゃねえか」

五徳猫を見やり、

ねずみ男「先生お願いしますよ」

バシンと背中を叩くと、背板が折れ、地面に倒れる五徳猫。

9

山奥の温泉

はしゃぐ、目玉。砂かけ、子泣き。

目　玉「うわはは、温泉にはいると、生き返るわい。のう、おばば」

砂かけ「親父殿、妖怪が生き返るとは、妙なもんだな」

目　玉「ハハハハ」

子泣き「鬼太郎も連れてくれば良かったに」

目　玉「たまには一人でのんびりしたじゃと」

10	
鬼太郎の家	のんびりと寝ている鬼太郎。

11	
ゴルフ場	ねずみ男と朱の盆と五徳猫が木陰に。 朱の盆「もっとすごい妖怪がいるんですか」 ねずみ男「ああ、ちょいといってくらあ」 朱の盆「また一人で」 ねずみ男「お前みたいな図体のでかいのがゴルフ場なんか歩いて見ろ、すぐに大騒ぎだろうが」

12	
4番ホール・ティーグラウンド	ティーショットを打つゴルファー。 ボールは池へ……

ゴルファー「アチャーッ」

13

4番ホール・池

池のボールを取ろうとするゴルファー。
横から手がニューと伸びてくる。

ゴルファー「???」
目線の先には、如意自在が手を伸ばして、ニカーッ。

ゴルファー「お、お、お化け!」
ボールを掴んで手を縮める如意自在。

ゴルファー「ど、泥棒! ボール泥棒」
○テロップ【如意自在】
走って逃げようとする。
その目の前に、ねずみ男。

ねずみ男「おめえ、相変わらずだな。ゴルフボールをくすねて、売っているのかい」

如意自在「い、いや、拙者は……。(開き直って)何を言う! 山を削って作ったゴルフ場を成敗しているのじゃ! ハハハハハ」

ボールの入った網袋を掲げ、
如意自在「見よこの成果！」
ねずみ男「嘘つけ……。ひもじいくせに……」
如意自在「拙者腐っても鯛、掃き溜めに鶴！　武士は食わねど爪楊枝じゃ」
ねずみ男「なんだかなあ、あっ、そう……。じゃあせっかく良いバイトがあるけど……、よそ当たろう」
如意自在、ねずみ男の前に急に走り込み、
如意自在「オホン！　拙者、ゴルフ場の成敗は終わったでござる。どうしてもと申すならば、貴殿の願い、聞かないでもない」
ねずみ男「はあ、やっぱり他を……」
如意自在「い、いや……、お金持ってるんでしょ。ちょうだい、ちょうだい！」
ねずみ男「はじめっからそう言えよ」

14　河原

朱の盆と五徳猫が待っているところに、ねずみ男が如意自在を連れてやってくる。

ねずみ男「おーい！　朱の盆」
朱の盆「ねずみ男」
ねずみ男「こちらが、如意自在先生だ」
如意自在「いかなる奴でも成敗してくれる！　拙者が来たからには他の助っ人など
まったく必要ないわ」
と言いつつ、五徳猫に気づく。
如意自在「五徳猫……、行き倒れになっていた」
五徳猫「お前こそ、ゴルフボール泥棒だろうが」
如意自在「シーッ……」

15 鬼太郎の家

鬼太郎が寝返りを打つ。

16 山奥

巨木が林立する山奥。

ねずみ男（M）「さて、あと一人ぐらいだまさねえと……」
　地図を見ながらねずみ男。
ねずみ男「確かこの辺に……顔だけ怖い奴が」
如意自在（ひそひそ）「おまえなんで、このバイトやってるわけ？」
五徳猫（ひそひそ）「腹減っちゃって……」

17　大きい樹の前

　ボロボロに腐っている。
ねずみ男「これかよ……。倒れそうな木だな」

18　ご神木

ねずみ男「朱の盆！　喜べ！　ついに見つけたぞ。究極の助っ人を」
朱の盆「おおっ！　すごい」
　〈用のある方は木を叩いて下さい〉の張り紙。

ねずみ男「なになに、よーし、待ってろ」
ねずみ男、木を3回叩く。ぐらぐらするが、なんにも起こらない。
朱の盆「ねずみ男。なんにも起こらないじゃないか」
ねずみ男「おっかしいな。朱の盆、おめえ、馬鹿力でやってみろ」
朱の盆、馬鹿力で、バンバンバン！
てっぽう。
更に一発。パッキン折れる巨木。
顔を見合わせるねずみ男と朱の盆。
そこに、上から巨木が倒れ落ちてくる。
朱の盆「ぎょえ――――っ！」
ドタン、ご神木が4人の上に落ちる。
もうもうとした煙。
煙が去ると、4人の上に山爺が……。
顔が怖い。
○テロップ【山爺】
朱の盆「ねずみ男、こいつ誰？」
ねずみ男「山爺だ……、早くどけよ爺……」

のったりどく、山爺。
ねずみ男「ふう、(気を取り直して)朱の盆! こちらにおわすは! 山爺先生だ」
朱の盆「すごいすごい、怖そう」
山爺ボーッとしている。
ねずみ男「先生……。先生……」
山爺の目の前に手をチラチラ。
ねずみ男「先生……。先生……」
山爺ボーッ……
朱の盆「ねずみ男、この先生生きているんですか」
頭を叩いてみるねずみ男。反応ない。
ねずみ男「ありゃ、死んでるみたい」
今度は、丸太を手にパコン!
反応ない……
ねずみ男「駄目だこりゃ。古すぎる」
ラグタイムをおいて頭に巨大たんこぶ。
山爺(ぼそっ)「痛い」
山爺急に泣き顔になり、倒れる。

朱の盆「ねずみ男……この先生大丈夫か？」
ねずみ男「なに、妖怪は顔が命。この怖い顔があれば……、へへへへ」

19

ぬらりひょんの隠れ家の前

ねずみ男「先生方（ひそひそ）後はよろしく、適当にやって逃げちまっていいからね。（もどって）朱の盆！　約束の物を」
朱の盆が、財布を開けようとするところをねずみ男、財布ごとひったくって、
ねずみ男「けちけちするんじゃねえよ」
朱の盆に耳打ち。
ねずみ男（ひそひそ）「こんなに強い先生方にお願いできて……、俺様のコネがなかったらなんにもできなかったろうに」
朱の盆「グヒヒ……そうだね。ねずみ男、ぬらりひょんさまには、お前に手伝ってもらったって事は内緒だぞ」
ねずみ男「あったりめえよ。全部……お前の手柄よ！　グヒヒヒヒ」
朱の盆「俺の手柄……グヒヒヒヒ」

ねずみ男、立ち去る。
ねずみ男「そんじゃな、俺はこれで」
朱の盆「ほんと、ねずみ男って良い奴だな」
ねずみ男（M）「ばっかだね、あんなカスの妖怪集めてどうすんの?!　……あっ、そうか。集めたのは俺様だっけ？」

20　ぬらりひょんの隠れ家

21　廊下

朱の盆、如意自在（足元フラフラ）、五徳猫、山爺が歩いてくる。
廊下の奥でぬらりひょんが出迎えている。
朱の盆「ぬらりひょんさまぁ」
ぬらり「おお、朱の盆。どうした強そうな助っ人は見つかったか」
歩み寄る、朱の盆と、三匹。
と、如意自在が、雑巾に足を滑らす。
如意自在「うわあああっと……」

無意識に手を柱にさしのべるが、ツルッ……。

如意自在「あらっ、りるれろ……」

手がギュ――ンと伸びる。

その手、ぬらりひょんに伸びていく。

ぬらり「なにっ?!」

頬をかすめ、後ろの壁を、バリン！

ぬらり「……」

如意自在、結局こける。

ぬらり、バラバラになった壁を見て、

ぬらり(M)「素晴らしい……。なんという早業。なんという破壊力」

如意自在立ち上がり、手を戻す。

如意自在「痛てっ、骨が折れた」

ぬらり、駆け寄ってきて、如意自在の手をぎゅーっと握りしめ。

ぬらり「良く来てくれました先生。……よーしこれで、鬼太郎はウワハハハハハ！」

如意自在、痛みをこらえて、冷や汗。

× × (C・M) × ×

22 夜・居間の前の廊下

朱の盆が、大きなお櫃を抱えて、行ったり来たり。
障子には、ぬらりたちのシルエット。

23 居間

ガツガツ飯を食う五徳猫と如意自在。
山爺はもったらもったら……。
さすがに、唖然として見ているぬらり。
ぬらり「……さっ、さすが豪傑の先生方……飯の食い方からして違う」
ドンドン積み重なるどんぶり。
五徳猫「なーに、俺様は大飯を食うことだけでは誰にもまけんぞ。おかわりガハハハハ」

ぬらり「これはたのもしい」
　　ぬらり、キセルを手にするが、
ぬらり「おや、火はどうしたかな……」
　　そこに、五徳猫の尻尾が、
ぬらり「？」
　　尻尾の先に、ポッ、火が付く。
　　五徳猫が勝ち誇って立っている。
五徳猫「炎を操るなぞ、造作もないこと」
　　ぬらり、キセルに火をつける。
ぬらり「なるほど……」
　　ぬらりは悦に入っている。
五徳猫「……驚くのは早い、俺様の火炎はまだまだ大きくなる。お見せしようか……」
ぬらり「いやいやここでは……明日の対戦の時に」
　　――イメージ・ものすごい火炎攻撃。
五徳猫（独り言）「良かった、強調悪いんだ」
ぬらり「はははは、実に頼もしい！　よーし、鬼太郎……。明日はお前の命日だ。今日のうちにじっくりと寝ておけ！」

三匹の手が止まる。

三　匹「鬼、鬼太郎!!」

24 鬼太郎の家

寝ている鬼太郎。

25 ぬらりひょんの隠れ家・居間

手に丼を持ったまま、固まっている三匹。

五徳猫「今、なんて言いました？　もしかして鬼太郎……なんて」

如意自在「言いませんよね？」

山爺、もったり食べている。

ぬらり「当たり前です先生。宿敵、鬼太郎を葬り去る為ですよ」

五徳猫「ごちそうさま」

如意自在「ワシも……」

ぬらり「どうしたんですか。もっと食べて下さい。明日のために」

部屋を出ていく三匹。

26 客間

まんじりともせず天井を見つめる五徳猫、如意自在。ボーッとしている山爺。

五徳猫「鬼太郎だなんて、聞いてなかったぞ」
如意自在「適当に話を合わせていればいいって、ねずみ男は言っておったが」
五徳猫「どうする」
如意自在「逃げるのはワシの主義ではない」
五徳猫「じゃあ、どうするんだよ」
如意自在「すまんが、ちょっと用事を思い出したのでワシは家に帰る」
五徳猫「卑怯者！」

27 廊下・かど

そーっと顔を出す、五徳猫。如意自在。

見渡す先には誰もいない。

如意自在「今だ」

五徳猫「山爺、お前はどうする」

山爺、鼻くそをほじって、見せる。ニヤッ。

如意自在「あんな奴放って置け」

五徳猫「ああ」

抜き足差し足で、歩く二匹。

如意自在、足を伸ばし大股。

五徳猫、踏み出すと、床がギイ……。

如意自在「シーッ……」

五徳猫も、口に指をあて、

五徳猫「シーッ……」

五徳猫また一歩。床がギイ……。

如意自在「シーッ……」

五徳猫も、口に指をあて、

五徳猫「シーッ……」

と言って如意自在が足を付くと、踏み抜き床板が、シーソーのようにバ

チン！
顔面に板パンチを食らう如意自在。
ぬらり（声）「なんだ！」
声を聞いて部屋に逃げる。

28

再び廊下

部屋から首を出す二匹。
如意自在、顔に絆創膏。
如意自在「さっきは危なかった」
五徳猫「よし、行くぞ……」
五徳猫、廊下に出ていく。如意自在、五徳猫の行った方と反対側を見て、
如意自在「?!」
首を引っ込める。
五徳猫、抜き足差し足……。
五徳猫「うまくいったぞ」
背中を誰かがトントンとする。

五徳猫「こら、悪戯するな」
　トントン。
五徳猫「コラッ！　やめろって」
　トントン。振り返る五徳猫。
　ぬらりひょんがそこに。
ぬらり「どちらへ……」
五徳猫「うわっ……（M）あいつら裏切りやがって」
ぬらり「どちらへ……」
五徳猫「ちょっとトイレ……」
ぬらり「トイレなら反対方向ですが……」
　スタスタ行ってしまう。
ぬらり「先生、ゆっくりお休みなさい」
　五徳猫、冷や汗。

29　鬼太郎の家

　寝返りを打つ鬼太郎。

30

ぬらりひょんの隠れ家・客間

天井を見つめる五徳猫、如意自在。
寝ている山爺。

31

朝

朱の盆（声）「先生方ぁ、出陣の時間ですよ」

32

ぬらりひょんの家の前

出てくる、ぬらりひょんたち。

ぬらり「鬼太郎、待っていろ……。先生方お願いしますぜ！」
山爺だけが、付いていく。歯がガチガチの五徳猫と如意自在。

朱の盆「さあ、行きましょう」
ブルブル震え出す五徳猫。

五徳猫（M）「わあ、小便ちびりそうに怖いよう。何でこうなっちゃったの」
ぬらり「どうしました五徳猫先生。震えてますが」
五徳猫「な、なっ、なに、武者震いだ」

33 その後ろ

ねずみ男「馬鹿だねえ、だいたい、俺様がそんなに強い奴紹介するわけないじゃん。
　自分より強い奴って、僕ちゃん元々嫌いだもん。さあ、やられっぷりでも
　見学させて貰いましょう」

34 ゲゲゲの森

　やってくるぬらりひょんたち。
　ねずみ男、遠くに見える。
ぬらり「先生方ここは不意打ちで……」
如意自在「いきなり？　しかし、ん？」
　山爺は、のったり走りだしている。

ぬらり「さすがは山爺先生。さあ！　先生方も」
朱の盆「お願いしまーす！」
　二匹を突き飛ばす朱の盆。転げるように飛び出す。

35 鬼太郎の家

三　匹「だああああ！」
　突撃してくる三匹。しかし、鬼太郎はいない。キョロキョロ。
五徳猫「ははははは……」
如意自在「な、なんだ、いないじゃないか……」
五徳猫「ワシ等を畏れて逃げおったわ！」
二　匹「グワハハハハハ」

36 鬼太郎の家の前

　勝ち誇って出てくる。
如意自在「鬼太郎めは、ワシ等を畏れて逃げやがった！」

ぬらり「なに」
如意自在「所詮卑怯な奴よ！　ハハハハハ」
五徳猫「本来なら鬼太郎ごとき、コテンパンに叩きのめしてくれるところを。まあ、今日のところは勘弁して……」
　五徳猫の顔色が変わる。逃げ腰。
五徳猫「今日のところは勘弁して……下さい。わあっ、ごめんなさい」
ぬらり「何を言っているんです五徳猫先生」
　といいつつ、五徳猫の目線をおうぬらり。
ぬらり「……鬼太郎」
　鬼太郎と、猫娘やってくる。
鬼太郎「ぬらりひょん！　何してる」
猫　娘「まーた悪巧みね。今度はなによ」
ぬらり「驚くな……。先生方。鬼太郎をたたんじまって下さい」
　ぬらりが振り返ると、三匹あみだクジ。
如意自在「いいか、このクジで当たりをひいた奴から、行くんだぞ！」
五徳猫「おし、では俺様はここ」
　山爺、線をおう。はずれをひくのが如意自在にわかる。

五徳猫「やった！」
如意自在（M）「まずい……」
如意自在、突然、
如意自在「五徳猫！」
五徳猫「なんだ？」
五徳猫が如意自在を見た瞬間。
如意自在の指が伸び、線を一本足す。
山爺、その線をたどろうとする。
如意自在「お前が当たりだ」
五徳猫「えっ！」

37

ゲゲゲの森・草っぱら

なぜか、西部劇の〈あの草〉が……。
鬼太郎VS五徳猫。五徳猫、背中に火吹き竹、足がガクガク。
ぬらり「おお、先生の武者震いだ！」
五徳猫「鬼太郎、おめえには何の恨みもねえが、死んで貰う！　行くぞ」

ザザザザと横に走り、火吹き竹を口に、尻尾に炎が着き、尻尾を火吹き竹の前にブオオオオオ！　猛烈な火炎。

ぬらり「おお！」

しかし、鬼太郎側から見ると、炎は、遠い。

ねずみ男「五徳猫の奴。逃げながら炎吐いたって……、だめだ、やっぱり三流以下だ」

ボオオオ！　しかし、一陣の風ヒュウウ！

炎、風にあおられ逆流。

五徳猫「ぐわあああ」

自分の炎で五徳猫真っ黒。バタン！

ぬらり「朱の盆、あれで終わりじゃないだろうな。実力は確かめたんだろう」

朱の盆「あの、その、如意自在先生なら鬼太郎なんか」

鬼太郎VS如意自在。木を挟んで対峙。

如意自在。いきなり手を伸ばし、手は木の右をかすめ、鬼太郎の首に。

如意自在「ふふ」

ぬらり「おお！」

続いて、左手。今度は木の左をかすめ、鬼太郎の首にガッシーン！

ねずみ男「へえ、予想外……」
次の瞬間、鬼太郎が如意自在の両手を引っ張る。
如意自在「なに、うわあぁ」
引っ張られる如意自在。木に激突。
(右手と左手の間に木があったのね)
ぬらり「朱の盆、どういうことだ……」
朱の盆「あわわわわ」
すると、山爺が歩み出てくる。
山　爺「合体!」
ぬらり「合体?!」
山　爺「妖気合体!」
ぬらり「おお、そうか、奥の手があったのか、先生方もお人が悪い」
吹きすさぶ風。すっくと立つ三匹。
五徳猫「合体って何だ?」
如意自在「一種の肩車だ。……たぶん」
山　爺「合体!」
五徳猫・如意自在「合体!」

山爺がふんばり、その上に如意自在が飛び乗る。

ぬらり「おお！」

如意自在の手が伸び、五徳猫を掴む。

五徳猫ジャンプ！　三段重ね。

三　匹「必殺！　妖気合体！」

ぬらり「なんと！」

ねずみ男「あんな事あいつらにできたの？」

ぬらり「行け！　鬼太郎をギタギタにしろ」

山爺、一歩踏み出す。

山　爺「……お、重い……」

石ころにつまずいて転ぶ。バッタ――ン。

如意自在「ぐわああ！」

腰が折れる。

五徳猫「うわあああ」

猫娘のところまで飛ばされ、思わず、猫娘の胸に掴まる。

猫　娘「このう！」

シャッキ――ン！

ギタギタにされる五徳猫。ヒクヒクヒク。

猫　娘「なにすんのよ！　レディに。スケベ」

ぬらり「朱の盆……」

朱の盆「ほわぁい」

ぬらり、朱の盆の胸ぐらを捕まえて、

ぬらり「朱の盆……。貴様、こいつらの何処が最強の妖怪なんだ！　いい加減な奴を連れてきよって」

仕込み杖でバシバシ！

朱の盆「アイタタタ。だって、ねずみ男が、強いって言ったんですよお」

ぬらり「なんだとう！」

森に消えていく二人。

38　草むら

ねずみ男「この馬鹿。朱の盆の奴余計な事を言いよって」

こそこそ、逃げる。

39 鬼太郎の家の前

三匹の手当をしている猫娘。そこに目玉たちが帰ってくる。おばば饅頭もって、

目　玉「ははは、良いお湯じゃった」

子泣き「また行きたいのう」

砂かけ「おや、五徳猫に、如意自在、山爺、どうしたんじゃ」

シュンとした三匹。

目　玉「ワシ等の留守の間に何かあったのか」

鬼太郎「それが……、良くわからないんです」

目　玉「まあ、いい。温泉饅頭を買ってきたから、みんなでたべんか。五徳猫、お前達も、どうじゃ」

砂かけ「お茶を入れよう」

家に入っていくおばばたち。

40 ゲゲゲの森のはずれ

ねずみ男、トボトボ。

ねずみ男「おもしろくねえ。鬼太郎も鬼太郎だよな。もう、ギッタギタにしちまえばいいのに……。弱いんだから、あいつら」

ぬらり（声）「誰が弱いんだ？」

ねずみ男「そりゃあの三匹よ。グヒヒそれに気が付かないぬらりひょんの間抜けも」

ぬらり（声）「誰が間抜けだって」

ねずみ男「だから、ぬらり……えっ？」

振り返ると、ぬらりひょんと朱の盆。

ねずみ男「あらぁ、これはぬらりひょん先生。あいつら酷い奴ですよね。弱いくせにさあ……」

ぬらり「朱の盆、捕まえろ」

飛びかかる朱の盆。逃げるねずみ男。

悔しがるぬらり。

ぬらり「覚えていろ鬼太郎。わしはあきらめんぞ」

終わり